

地域住民によるかけ算九九支援活動

▶▶ キーワード 学力向上、学校運営協議会

取組概要

「児童の学力差」を解消するために、地域住民が主体となって、かけ算九九の定着を目的とした学習支援活動を実施。



活動の詳細・ポイント

経緯

- 学校運営協議会における熟議の中で、「児童の学力差」が学校課題として挙げられた。
- 家庭によっては、かけ算九九の定着等を目的とした宿題を依頼しても、十分な対応が得られないといった、家庭環境の格差も課題であった。
- 学習に困難を抱えている児童に対して手厚いサポートを行いたいという意向はあったものの、学校として十分な人的資源及び時間的余裕が確保できない状況であった。
- 小学2年生を対象としたかけ算九九の定着を目的とする学習支援活動を、地域学校協働活動推進員が中心となってコーディネートし、元々存在していたネットワークを活用して7～8名による支援チームを結成した。

活動内容

- 11月から12月にかけて、週2回の朝自習（15分間）を活用し、家庭科室を会場として実施した。児童を6グループに分け、地域の方々に対してかけ算九九の暗唱を行う形式で実施した。
- 「チャレンジコース」と「ゆっくりコース」を設けるなどの工夫を行い、算数が苦手な児童も前向きに取り組むことができるよう配慮した。



● 成果・効果

- ・ 児童の学習への意欲が向上するとともに、学力の向上にもつながった。
 - ・ これまではかけ算九九が未定着のまま次の学習に進まざるを得なかった児童たちが、九九を習得した状態で次の学習に進むことができるようになった。
- ※R6年度船岡小学校2年生標準学力調査における算数の得点率(算数)→+4.4ポイント(全国平均を50として)

● 関係者の声

- ・ 負担感を感じることなく教育活動の充実を図ることができた。毎年継続して実施してほしい。(教員)
- ・ 学校外でも、児童から声をかけてくれた。児童と地域住民との関係性強化につながった。(地域)

● 活動データ

- ・ 対象者：小学2年生児童
- ・ 企画・運営：地域学校協働活動推進員、学校支援ボランティア